

中学生の学内外のスポーツ・運動に関する実施状況と課題

—非実施者のスポーツ・運動支援について考える—

The State of Implementation and Challenges for In-School and Out-of-School Sports and Exercise Activities for Junior High School Students: Encouraging Non-Participating Students to Take Part in Sports and Exercise

金子勝司*・大月和彦**

Shoji KANEKO, Kazuhiko OTSUKI

要旨：中学生のスポーツ・運動に対する2極化を解消する為、中学生の学内外における運動・スポーツの実態を明らかにし、その傾向と今後の運動・スポーツの実施における支援の在り方を考察する。また、非実施者に対して、その要因を探り、運動・スポーツの実施に向けた支援策を明らかにすることを目的とした。調査方法は、大阪府K市内にある公立中学校の全11校の中から、一学年の生徒が100名を超える比較的中規模以上の中学校4校を選出し質問紙による調査を実施。結果、中学校の運動部や地域の武道系種目に所属していることがスポーツ、運動の実施率と市の大会やイベント参加に大きく関連していることが明らかになった。非実施者に対しては、「やってみたい」と回答した者に対し、まず学校のクラブ活動において、運動が苦手な生徒でも参加できる体制を構築すること、地域のスポーツ・運動環境の整備を考えていくことが、始めるきっかけや継続していくことにつながっていくことが明らかになった。

キーワード：中学生，スポーツ・運動，実施率

I. 諸言

文部科学省が実施している「体力・運動能力調査（2012）」によると、子どもの体力は、平成13年から約10年間にわたり、概ね低下傾向に歯止めがかかり、これまでの施策が一定の効果をあげていると言えるが、体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、基礎的運動能力は依然として低い状況にある¹⁾。今日の体力・運動能力低下の背景として、児童生徒の運動実施状況の二極化が顕著に認められる。平成28年度のスポーツ庁『スポーツの実施状況等に関する世論調査』においても、1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒は、小学校の男子10.9%、女子

* かねこ しょうじ 客員研究員・大阪体育大学教育学部

** おおつき かずひこ 文教大学教育学部

23.9%であり、中学校においては男子9.1%、女子30.9%であった。中学女子においては、スポーツをほとんどしない者が3割を超えている。したがって運動時間が少ない児童生徒に対して運動時間を増やす取組は重要であり、特に女子を対象とした取組を重視する必要がある。このような状況において、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実を学校だけでなく、家庭や地域が一体となってい、積極的に運動・スポーツに取り組む態度を育成し、ひいては体力を向上させることは、引き続き大きな課題である²⁾。

運動部活動については、例えば中学での所属率がほぼ横ばいで推移しているが、少子化に伴う運動部活動の所属生徒数の減少等により、チーム競技等においては特に活動に支障をきたしている。また、顧問教員の負担を軽減するためのスポーツ指導者の確保についても課題があり、その形態や運営について一層の工夫が求められている。さらに、種目によっては女子の参加が困難なものもあり、参加機会の充実が求められている³⁾。

子ども自身が体を動かすことの楽しさに触れ、進んで体を動かすようになるためには、子どもたちの生活の場である地域における運動・スポーツ活動を充実していくことが重要であるが、内閣府の「体力・スポーツに関する世論調査(2009)」によると、多くの大人が自分の子ども時代と比べて、子どものスポーツ環境は悪くなったと考えている。また、多くの子どももスポーツ機会が増えることを望んでいる⁴⁾。

このような中、地域における子どものスポーツ機会の場として、公共のスポーツクラブ等での活動が重要であると考えられるが、スポーツ指導者の確保が十分にはできていないとともに、スポーツ指導者の派遣等、学校の体育に関する活動との連携も不十分な状況にある。また、スポーツ少年団についても、小学生の加入率は高いが、中学生の加入率は低く、各地域において、子どものスポーツ機会を十分提供できているとは言えない状況にある。

よって本研究では、中学生の学内外における運動・スポーツの実施状況を調査し、その傾向を明らかにすることで今後の中学生に対する運動・スポーツの実施における支援の在り方を考察する。また、非実施者に対して、その要因を探り、運動・スポーツの実施に向けた支援策を考察することを目的としている。

II. 研究概要

1. **目的**：中学生の学内外における運動・スポーツの実施状況を調査し、その傾向を明らかにすることで今後の中学生に対する運動・スポーツの実施における支援の在り方を考察する。また、非実施者に対して、その要因を探り、運動・スポーツの実施に向けた支援策を考察することを目的としている
2. **調査対象**：大阪府K市内にある公立中学校の全11校の中から、一学年の生徒が100名を超える比較的中規模以上の中学校4校を選出した。
3. **調査地選定理由**：K市の中学生の運動スポーツ実施状況は、「平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣調査」によると、小学生の体力合計得点は一部全国平均を上回っているが、中学生は全国平均を下回っていることからその要因を探るべく調査地として選定した。
4. **調査対象者**：選定した4校に通う中学1年生 667名、内訳は男子319名(47.8%)、女子348名(52.2%)であった。
5. **回収率**：100%
6. **回収方法**：各校の生徒に対して、調査の趣旨を説明し賛同を得た生徒に対して質問紙による

調査を実施した。

7. 調査日時：平成 28 年 12 月初旬～中旬

8. 質問内容：①スポーツ・運動実施率 ②学校の自由時間でのスポーツや運動 ③帰宅後の外でのスポーツ・運動の実施状況 ④自宅近くのスポーツ・運動実施場所の有無 ⑤市の大会やスポーツイベント等の参加有無 ⑥参加した市の大会やスポーツイベント ⑦情報の入手経路 ⑧スポーツ・運動の実施方法 ⑨現在実施しているスポーツ・運動活動 ⑩スポーツ・運動するにあたっての不满 ⑪今後スポーツ・運動を実施したいと思うか（非実施者対象）⑫スポーツ・運動をしない理由（非実施者対象）⑬今後実施してみたいスポーツ・運動（非実施者対象）

Ⅲ. 結果・考察

1. スポーツ・運動の実施率

表 1 の調査に協力いただいた、回答者 667 名の内訳をみると、男子 319 名（47.8%）、女子 348 名（52.2%）であった。また、性別の違いによるスポーツ・運動の実施率をみると、「ほぼ毎日」「週に 1 回以上」と定期的に活動している者は、男子 81.9%、女子 68.4%と男子が非常に高い割合で実施していることが明らかになった。また、「ほとんどしていない」と回答した者は、男子 13.2%、女子 25.6%と男子に比べ、女子は高い割合で運動を実施していないことが明らかになり、全国平均とほぼ同様の結果であった。

表 1) スポーツ・運動の実施率

	調査数	男子	女子
合計	667 100.0%	319 47.8%	348 52.2%
ほぼ毎日	412 61.8%	219 68.7%	193 55.5%
週に 1 回以上	87 13.0%	42 13.2%	45 12.9%
月に 1 回以上	29 4.3%	14 4.9%	15 4.3%
ほとんどしていない	131 19.6%	42 13.2%	89 25.6%
無回答	8 1.20%	2 0.60%	6 1.70%

2. 学校の自由時間でのスポーツや運動の実施率

表 2 の「学校の自由時間でのスポーツや運動」の実施率についてみると、「よくする」「時々する」と回答した者は 26.0%（男 37.6%・女 15.5%）であり、性別の違いでみると男子の実施率が女子に比べ高い数値であった。また、女子においては「全然しない」と回答した者が 52.6%であり、2 人に 1 人が全くスポーツや運動を実施していない状況が明らかになった。ただし、スポーツ・運動の実施を「ほぼ毎日」と回答した者でも、自由時間に良くすると回答した者は 12.1%であることから、学校の自由時間内ではスポーツや運動を実施する機会が少ないことも明らかになった。

3. 帰宅後の外での運動・スポーツの実施状況

表 3 の「帰宅後の外で運動・スポーツで遊んでいるか」についてみると、「よくする」「時々する」を合わせると 55.9%（男 57.4%・女 54.4%）の者が屋外で運動やスポーツすると回答した。

表 2) 学校の自由時間でのスポーツや運動の実施率

		調査数	よくする	時々する	あまりしない	全然しない	無回答
合計		667 100.0%	67 10.0%	107 16.0%	200 30.0%	292 43.8%	1 0.1%
性別	男子	319 100.0%	44 13.8%	76 23.8%	90 28.2%	109 34.2%	- -
	女子	348 100.0%	23 6.6%	31 8.9%	110 31.6%	183 52.6%	1 0.3%
スポーツ・運動の実施率	ほぼ毎日	412 100.0%	50 12.1%	76 18.4%	127 30.8%	159 38.6%	- -
	週に1回以上	87 100.0%	8 9.2%	21 24.1%	30 34.5%	27 31.0%	1 1.1%
	月に1回以上	29 100.0%	3 10.3%	3 10.3%	8 27.6%	15 51.7%	- -
	ほとんどしていない	131 100.0%	4 3.1%	7 5.3%	33 25.2%	87 66.4%	- -

男女の違いによる差は見られなかった。スポーツ・運動の実施を「ほぼ毎日」と回答した者で、「よくする」「時々する」と回答した者は60.4%、「週に1回以上」と回答した者が「よくする」「時々する」と回答した者が64.4%と高い数値を示し、帰宅後の屋外での活動についても、日頃のスポーツ・運動の実施率の高さと関連していることが明らかになった。反対にスポーツ・運動の実施を「ほとんどしていない」と回答した者を見ると、「あまり遊ばない」「全然しない」と回答した者は63.4%であり、普段からスポーツ・運動の実施の低い者の多くは学内においても室内傾向にあることが明らかになった。

表 3) 帰宅後の屋外で運動・スポーツを遊んでいるか

		調査数	よくする	時々する	あまりしない	全然しない	無回答
合計		667 100.0%	126 18.9%	246 36.9%	158 23.7%	136 20.4%	1 0.1%
性別	男子	319 100.0%	67 21.0%	116 36.4%	70 21.9%	65 20.4%	1 0.3%
	女子	348 100.0%	59 17.0%	130 37.4%	88 25.3%	71 20.4%	- -
スポーツ・運動の実施率	ほぼ毎日	412 100.0%	84 20.4%	165 40.0%	90 21.8%	72 17.5%	1 0.2%
	週に1回以上	87 100.0%	24 27.6%	32 36.8%	15 17.2%	16 18.4%	- -
	月に1回以上	29 100.0%	4 13.8%	9 31.0%	10 34.5%	6 20.7%	- -
	ほとんどしていない	131 100.0%	13 9.9%	35 26.7%	41 31.3%	42 32.1%	- -

4. 自宅近くの運動・スポーツ実施場所の有無

表4の「自宅近くの運動・スポーツ実施場所」についてみると、男女とも約80%が「ある」と回答した。スポーツ・運動実施を「ほとんどしていない」と回答した者でも、75.6%が「ある」と回答しており、自宅近くに外でスポーツ・運動環境があるにも関わらず、実施していないことがわかり、非実施者は運動する環境有無が直接の問題ではないことが明らかになった。よって「ほとんどしていない」と回答した者に対し、どのような理由からスポーツや運動を実施しないのか実態を把握し、その者に対して学校や自治体等がどのような支援をすることが実施率に繋がるのか考えていかなければならない。

5. 市の大会やスポーツイベント等への参加の有無

表5の「市の大会やスポーツイベントなどへの参加の有無」についてみると、「ある」と回答

表 4) 自宅近くの運動・スポーツ実施場所

		調査数	ある	ない	わからない	無回答
合計		667 100.0%	533 79.9%	56 8.4%	74 11.1%	4 0.6%
性別	男子	319 100.0%	256 80.3%	27 8.5%	33 10.3%	3 0.9%
	女子	348 100.0%	277 79.6%	29 8.3%	41 11.8%	1 0.3%
スポーツ・運動の実施率	ほぼ毎日	412 100.0%	329 79.9%	41 10.0%	40 9.7%	2 0.5%
	週に1回以上	87 100.0%	73 83.9%	3 3.4%	11 12.6%	-
	月に1回以上	29 100.0%	27 93.1%	-	2 6.9%	-
	ほとんどしていない	131 100.0%	99 75.6%	11 8.4%	19 14.5%	2 1.5%

した者は、男女とも5割（男子51.7%・女子50.9%）を超えており、スポーツ・運動の実施を「ほぼ毎日（61.9%）」と「週に1回（49.4%）」と回答した者が高い数値を示しており、日頃の実施率の高さが、市の大会やスポーツイベントへの参加につながっていることが明らかになった。また「ほとんどしていない」と回答した者のうち、74.8%が市の大会やスポーツイベントへの参加が「ない」と回答していることから、日頃の運動・スポーツへの関わりが地域のスポーツイベント・大会の参加に大きく影響していることが明らかになった。

表 5) 市の大会やスポーツイベント等への参加の有無

		調査数	ない	ある	無回答
合計		667 100.0%	317 47.5%	345 51.7%	5 0.7%
性別	男子	319 100.0%	147 46.1%	168 52.7%	4 1.3%
	女子	348 100.0%	170 48.9%	177 50.9%	1 0.3%
スポーツ・運動の実施率	ほぼ毎日	412 100.0%	154 37.4%	255 61.9%	3 0.7%
	週に1回以上	87 100.0%	43 49.4%	43 49.4%	1 1.1%
	月に1回以上	29 100.0%	17 58.6%	12 41.4%	-
	ほとんどしていない	131 100.0%	98 74.8%	32 24.4%	1 0.8%

6. 参加した市の大会やスポーツイベント

表6の「市の大会やスポーツイベントに参加したもの」についてみると、「市民大会（39.1%）」への参加が男女とも高い数値を示した。男女別に参加率の高い順でみると、男子では「市民大会（40.5%）」「スポーツ少年大会（10.7%）」「スポーツカーニバル（10.7%）」、女子では「市民大会（37.9%）」「スポーツカーニバル（10.2%）」「初心者水泳大会（6.2%）」が上位を占めた。「市民大会」が高い数値を示した理由として、中学校の様々な運動部が参加できる大会であり、その大会種目も24～26種目あることから、これらの理由が高い参加率に繋がったといえる。次に、男子の「スポーツ少年大会」が高い数値を示した理由として、この大会は武道系種目（柔道・剣道・空手等）も含まれ、中学校の運動部に属さず地域の武道場で活動している者が、この大会に参加できた為であると推測される。結果、高い参加率を示した大会は、どれも中学校のクラブ活動や地域の武道系種目の所属と大きく関連してことが明らかになった。

表 6) 参加した市の大会やスポーツイベント

	調査数	少年大会	市民大会	カーニバル	フアミリー登山	ウォーキング	初心者水泳教室	ニュースポーツ体験会	体育館教室	よくわからない	無回答	
合計	345 100.0%	27 7.8%	135 39.1%	36 10.4%	1 0.3%	5 1.4%	15 4.3%	2 0.6%	11 3.2%	85 24.6%	28 8.1%	
性別	男子	168 100.0%	24 14.3%	68 40.5%	18 10.7%	1 0.6%	2 1.2%	4 2.4%	1 0.6%	3 1.8%	38 22.6%	9 5.4%
	女子	177 100.0%	3 1.7%	67 37.9%	18 10.2%	-	3 1.7%	11 6.2%	1 0.6%	8 4.5%	47 26.6%	19 10.7%
スポーツ・運動の実施率	ほぼ毎日	255 100.0%	23 9.0%	109 42.7%	24 9.4%	1 0.4%	3 1.2%	9 3.5%	2 0.8%	8 3.1%	60 23.5%	16 6.3%
	週に1回以上	43 100.0%	1 2.3%	15 34.9%	7 16.3%	-	-	1 2.3%	-	1 2.3%	11 25.6%	7 16.3%
	月に1回以上	12 100.0%	1 8.3%	3 25.0%	1 8.3%	-	-	1 8.3%	-	-	5 41.7%	1 8.3%
	ほとんどしていない	32 100.0%	2 6.3%	6 18.8%	4 12.5%	-	2 6.3%	4 12.5%	-	2 6.3%	8 25.0%	4 12.5%

7. 情報の入手経路

表7の「スポーツや運動をするチームや場所をどこで知ったか」についてみると、男女とも「学校（男 53.8%・女 54.5%）」と回答した者が半数を超え、次いで「知り合い（友人）の紹介（男 30.5%・女 22.9%）」が高い数値を示した。反対に「市の広報やホームページ（5.3%）」は低い数値であり、生徒達は身近な関わりを通して情報収集していることが明らかになり、自治体はこの年齢層に応じた情報提供の在り方を考えていく課題が明らかになった。

表 7) スポーツや運動をするチームや場所の情報の入手経路

	調査数	市の広報やホームページ	の紹介（友人）	いた家族が入って	学校	その他	無回答	
合計	528 100.0%	27 5.1%	142 26.9%	32 6.1%	286 54.2%	37 7.0%	4 0.8%	
性別	男子	275 100.0%	11 4.0%	84 30.5%	12 4.4%	148 53.8%	18 6.5%	2 0.7%
	女子	253 100.0%	16 6.3%	58 22.9%	20 7.9%	138 54.5%	19 7.5%	2 0.8%
スポーツ・運動の実施率	ほぼ毎日	412 100.0%	19 4.6%	93 22.6%	29 7.0%	242 58.7%	26 6.3%	3 0.7%
	週に1回以上	87 100.0%	7 8.0%	39 44.8%	2 2.3%	32 36.8%	6 6.9%	1 1.1%
	月に1回以上	29 100.0%	1 3.4%	10 34.5%	1 3.4%	12 41.4%	5 17.2%	-
	ほとんどしていない	-	-	-	-	-	-	-

8. スポーツ・運動の実施方法

表8の「スポーツ・運動をどのようなかたちで行っているか」についてみると、「学校の部活動」が大半を占め、男子 69.1%、女子 76.3%であった。以上の結果から、中学生のスポーツ・運動の実施状況は、学校の運動部に依存している傾向が明らかになり、今後学校の運動部が部活動顧問の労働時間等の問題から部活動のあり方を見直される状況においては、自治体として地域等

にどのような受け皿や取り組みを行っていくべきかを早急検討していく必要があることが明らかになった。

表 8) スポーツ・運動の実施方法について

		調査数	学校の部活動	学校の部活動以外のスポーツクラブや教室	学校の部活動以外	スポーツ少年団	総合型地域スポーツクラブ	友達や仲間と自由に活動	家族と自由に活動	よくわからない	無回答
合計		528 100.0%	383 72.5%	83 15.7%	10 1.9%	13 2.5%	17 3.2%	3 0.6%	18 3.4%	1 0.2%	
性別	男子	275 100.0%	190 69.1%	47 17.1%	9 3.3%	12 4.4%	5 1.8%	1 0.4%	10 3.6%	1 0.4%	
	女子	253 100.0%	193 76.3%	36 14.2%	1 0.4%	1 0.4%	12 4.7%	2 0.8%	8 3.2%	-	
スポーツ・運動の実施率	ほぼ毎日	412 100.0%	322 78.2%	59 14.3%	7 1.7%	11 2.7%	6 1.5%	-	6 1.5%	1 0.2%	
	週に1回以上	87 100.0%	48 55.2%	21 24.1%	2 2.3%	2 2.3%	8 9.2%	1 1.1%	5 5.7%	-	
	月に1回以上	29 100.0%	13 44.8%	3 10.3%	1 3.4%	-	-	3 10.3%	2 6.9%	7 24.1%	
	ほとんどしていない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

9. 現在実施している運動・スポーツ活動

表9の「どのような種目のスポーツや運動を行っているか」について男女別にみると、男子では「野球 (21.1%)」「サッカー (13.5%)」「バスケットボール (13.5%)」「卓球 (13.5%)」が上位を占め、女子では、「バドミントン (13.4%)」「陸上競技 (13.0%)」「バレーボール (12.6%)」が上位を占めた。この上位に挙げた活動は、スポーツ・運動の実施率においても「ほぼ毎日」「週に1回以上」と回答した者が高い数値を示していることが明らかになった。

表 9) どのような種目のスポーツや運動を行っているか

		調査数	野球	サッカー	バスケットボール	剣道	バレーボール	空手	陸上競技	柔道	ソフトボール	少林寺拳法	水泳	卓球	バドミントン	テニス	ソフトテニス	体操新体操	ダンス	ゴルフ	スキー・スノーボード	その他	無回答	
合計		528 100.0%	59 11.2%	37 7.0%	66 12.5%	15 2.8%	38 7.2%	9 1.7%	61 11.6%	7 1.3%	16 3.0%	1 0.2%	4 0.8%	61 11.6%	34 6.4%	20 3.8%	20 3.8%	4 0.8%	20 3.8%	1 0.2%	1 0.2%	37 7.0%	17 3.2%	
性別	男子	275 100.0%	58 21.1%	37 13.5%	37 13.5%	11 4.0%	6 2.2%	8 2.9%	28 10.2%	6 2.2%	-	1 0.4%	3 1.1%	37 13.5%	-	8 2.9%	12 4.4%	-	-	-	-	15 5.5%	8 2.9%	
	女子	253 100.0%	1 0.4%	-	29 11.5%	4 1.6%	32 12.6%	1 0.4%	33 13.0%	1 0.4%	16 6.3%	-	1 0.4%	24 9.5%	34 13.4%	12 4.7%	8 3.2%	4 1.6%	20 7.9%	1 0.4%	1 0.4%	22 8.7%	9 3.6%	
スポーツ・運動の実施率	毎日	412 100.0%	47 11.4%	31 7.5%	52 12.6%	14 3.4%	33 8.0%	8 1.9%	53 12.9%	6 1.5%	15 3.6%	1 0.2%	2 0.5%	47 11.4%	30 7.3%	14 3.4%	18 4.4%	3 0.7%	8 1.9%	-	-	-	21 5.1%	9 2.2%
	週に1回以上	87 100.0%	10 11.5%	5 5.7%	9 10.3%	1 1.1%	5 5.7%	-	5 5.7%	1 1.1%	1 1.1%	-	2 2.3%	12 13.8%	2 2.3%	4 4.6%	2 2.3%	-	12 13.8%	-	1 1.1%	11 12.6%	4 4.6%	
	月に1回以上	29 100.0%	2 6.9%	1 3.4%	5 17.2%	-	-	1 3.4%	3 10.3%	-	-	-	-	2 6.9%	2 6.9%	2 6.9%	-	1 3.4%	-	1 3.4%	-	5 17.2%	4 13.8%	
	ほとんどしていない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

10. スポーツ・運動するにあたっての不満

表10の「スポーツ・運動活動するにあたっての不満」についてみると、「不満はない」が男子

56.4%、女子 51.8%と約半数の者が現在の活動に満足していることが明らかになった。次いで、男女ともに「その他 (12.3%)」「練習が楽しくない (11.4%)」「活動時間が短い (11.2%)」等、その種目の活動内容に対するものが上位を占めた。

表 10) スポーツ・運動するにあたっての不満

	調査数	短い活動時間が	指導者がこ	で活動場所ま	りに指導がわか	い施設がふる	い試合が少な	数が少ない	く練習が楽し	れない試合に出	が色々な種目	その他	不満はない	無回答	
合計	528 100.0%	59 11.2%	46 8.7%	29 5.5%	31 5.9%	18 3.4%	48 9.1%	28 5.3%	60 11.4%	34 6.4%	17 3.2%	65 12.3%	286 54.2%	9 1.7%	
性別	男子	275 100.0%	33 12.0%	25 9.1%	19 6.9%	6 2.2%	15 5.5%	26 9.5%	11 4.0%	30 10.9%	13 4.7%	6 2.2%	34 12.4%	155 56.4%	4 1.5%
	女子	253 100.0%	26 10.3%	21 8.3%	10 4.0%	25 9.9%	3 1.2%	22 8.7%	17 6.7%	30 11.9%	21 8.3%	11 4.3%	31 12.3%	131 51.8%	5 2.0%
や学校以外でのスポーツ	ほぼ毎日	412 100.0%	54 13.1%	35 8.5%	25 6.1%	25 6.1%	14 3.4%	41 10.0%	23 5.6%	45 10.9%	28 6.8%	12 2.9%	56 13.6%	218 52.9%	7 1.7%
	週に1回以上	87 100.0%	5 5.7%	5 5.7%	2 2.3%	4 4.6%	4 4.6%	7 8.0%	2 2.3%	11 12.6%	6 6.9%	4 4.6%	8 9.2%	51 58.6%	2 2.3%
	月に1回以上	29 100.0%	-	6 20.7%	2 6.9%	2 6.9%	-	-	3 10.3%	4 13.8%	-	1 3.4%	1 3.4%	17 58.6%	-
	ほとんどしていない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

11. スポーツ・運動の非実施者に対して

表 11 の非実施者に対して行った、「今後スポーツ・運動を実施したいと思うか」という問いに対して、「したい」と回答した者は男子 23.8%、女子 30.3%であり、約 3 割のものがスポーツ・運動への取り組みに興味を示している。また、「わからない」と回答した者が、男子 40.5%、女子 36.0%であり、どちらにも回答できなかった原因究明と、「したい」と回答した者に対するの支援方法を学校と自治体の両面で早急に考えていく必要がある。

表 11) 今後スポーツ・運動を実施したいと思うか (非実施者に対して)

	調査数	したい	したくない	わからない	無回答	
合計	131 100.0%	37 28.2%	42 32.1%	49 37.4%	3 2.3%	
性別	男子	42 100.0%	10 23.8%	13 31.0%	17 40.5%	2 4.8%
	女子	89 100.0%	27 30.3%	29 32.6%	32 36.0%	1 1.1%
実施率 スポーツ 運動の	ほぼ毎日	-	-	-	-	
	週に1回以上	-	-	-	-	
	月に1回以上	-	-	-	-	
	ほとんどしていない	131 100.0%	37 28.2%	42 32.1%	49 37.4%	3 2.3%

表 12 の非実施者に対して行った、「スポーツや運動をしていない理由」についてみると、男子では、「家で遊ぶ方が好きだから (45.2%)」「やる気がしなから (38.1%)」「あまり好きじゃないから (35.7%)」、女子では、「家で遊ぶ方が好きだから (39.3%)」「あまり好きじゃないから (34.8%)」「特に理由はない (28.1%)」が上位を占め、男女とも室内傾向とスポーツ・運動に対する消極的な姿勢が理由であることがわかった。表 11 の結果にもあったように「したい」と回答した者が 3 割近くいることから、今回の理由を踏まえ、学校や自治体はクラブに属さない子や、やりたいが何をしたらいいかわからない者に対するの支援の在り方を考えていくことが重要

であることが明らかになった。

表 12) スポーツ・運動をしない理由 (非実施者対象)

	調査数	あまり好きじゃないから	家で遊ぶほうが好きだから	やる気がしないから	特に理由はない	上手くできないから	勉強・塾などではないから	やりたいスポーツ少年団・クラブや教室がないから	お金がかかるから	友達が少ないから	近くに場所がないから	家族がしていないから	その他	無回答
合計	131 100.0%	46 35.1%	54 41.2%	38 29.0%	32 24.4%	26 19.8%	25 19.1%	4 3.1%	4 3.1%	9 6.9%	3 2.3%	4 3.1%	14 10.7%	4 3.1%
性別	男子	42 100.0%	15 35.7%	19 45.2%	16 38.1%	7 16.7%	9 21.4%	4 9.5%	-	2 4.8%	2 4.8%	-	2 4.8%	4 9.5%
	女子	89 100.0%	31 34.8%	35 39.3%	22 24.7%	25 28.1%	17 19.1%	21 23.6%	4 4.5%	4 4.5%	7 7.9%	1 1.1%	4 4.5%	12 13.5%
スポーツ・運動の実施率	ほぼ毎日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	週に1回以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	月に1回以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ほとんどしていない	131 100.0%	46 35.1%	54 41.2%	38 29.0%	32 24.4%	26 19.8%	25 19.1%	4 3.1%	4 3.1%	9 6.9%	3 2.3%	4 3.1%	14 10.7%

表 13 の非実施者に対して行った、「今後実施してみたいスポーツや運動」についてみると、全体では「色々なスポーツをしたい (26.7%)」「バドミントン (20.6%)」「テニス (16.0%)」が上位を占めた。男女別にみると、男子では「卓球 (16.7%)」「弓道 16.7%)」「野球 14.3%)」、女子

表 13) 今後実施してみたいスポーツ・運動 (非実施者対象)

	調査数	野球	サッカー	バスケットボール	剣道	バレーボール	空手	陸上競技	柔道	ソフトボール	少林寺拳法	水泳	卓球	バドミントン	合気道	ラグビー	テニス	ソフトテニス
合計	131 100.0%	8 6.1%	8 6.1%	19 14.5%	7 5.3%	16 12.2%	6 4.6%	2 1.5%	4 3.1%	2 1.5%	3 2.3%	15 11.5%	20 15.3%	27 20.6%	1 0.8%	1 0.8%	21 16.0%	8 6.1%
性別	男子	42 100.0%	6 14.3%	3 7.1%	1 2.4%	2 4.8%	3 7.1%	2 4.8%	3 7.1%	1 2.4%	2 4.8%	1 2.4%	7 16.7%	2 4.8%	1 2.4%	-	4 9.5%	2 4.8%
	女子	89 100.0%	2 2.2%	5 5.6%	18 20.2%	5 5.6%	13 14.6%	6 6.7%	-	1 1.1%	2 2.2%	1 1.1%	14 15.7%	13 14.6%	25 28.1%	-	1 1.1%	19 21.3%
学校以外でのスポーツ	ほぼ毎日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	週に1回以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	月に1回以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ほとんどしていない	131 100.0%	8 6.1%	8 6.1%	19 14.5%	7 5.3%	16 12.2%	6 4.6%	2 1.5%	4 3.1%	2 1.5%	3 2.3%	15 11.5%	20 15.3%	27 20.6%	1 0.8%	1 0.8%	21 16.0%

	調査数	体操・新体操	ダンス	ドッジボール	弓道	ウォーキング	ゴルフ	ジョギング・マラソン	スケート	スキー・スノーボード	(野外活動) キャンプ	色々なスポーツをしたい	その他	無回答
合計	131 100.0%	11 8.4%	20 15.3%	7 5.3%	10 7.6%	2 1.5%	2 1.5%	4 3.1%	16 12.2%	13 9.9%	10 7.6%	35 26.7%	8 6.1%	5 3.8%
性別	男子	42 100.0%	2 4.8%	1 2.4%	2 4.8%	1 2.4%	2 4.8%	1 2.4%	1 2.4%	3 7.1%	4 9.5%	5 11.9%	4 9.5%	4 9.5%
	女子	89 100.0%	9 10.1%	19 21.3%	5 5.6%	3 3.4%	1 1.1%	-	3 3.4%	15 16.9%	10 11.2%	6 6.7%	30 33.7%	4 4.5%
学校以外でのスポーツ	ほぼ毎日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	週に1回以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	月に1回以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ほとんどしていない	131 100.0%	11 8.4%	20 15.3%	7 5.3%	10 7.6%	2 1.5%	2 1.5%	4 3.1%	16 12.2%	13 9.9%	10 7.6%	35 26.7%	8 6.1%

では「色々なスポーツをしたい (33.7%)」「バドミントン (28.1%)」「ダンス (21.3%)」が上位であった。

IV. まとめ

本研究の結果をみると、中学校内においては、保健体育の授業や運動部での活動以外に、自由時間等でのスポーツや運動を実施する機会が少ないことが明らかになった。また、帰宅後の外での運動・スポーツの実施については、普段スポーツや運動の実施率が高い者の約5割の者が「よくする」、「時々する」と回答しており、反対に普段からスポーツ・運動の実施の低い者の多くは室内傾向にあることが明らかになった。次に、自宅近くの運動・スポーツ実施場所の有無については、男女とも約8割が「ある」と回答し、男女差はなかった。普段、スポーツ・運動の実施を「ほとんどしていない」と回答した者でも、75.6%が「ある」と回答しており、非実施者の問題がスポーツ・運動環境によるものではないことが明らかになった。よって非実施者に対し、どのような理由から運動をしないのか等、実態を把握しどのような支援を必要としているのか考えていかなければならない。

市の大会やスポーツイベントに参加したものについては、「市民大会」が高い参加率を示した。その要因は、中学校の様々な運動部が参加できる大会であること、また次に高い数値を示した「スポーツ少年大会」は、武道系種目（柔道・剣道・空手等）が多く、地域の武道場で活動している者がその大会に参加できることから、中学校のクラブ活動や地域の武道系道場への所属が大きく関連していることが明らかになり、学校や地域のスポーツ・運動部に多くの生徒を所属させることが地域の大会やイベントを活性化させることに重要な関係があることが明らかになった。非実施者に対しては、今後実施してみたいスポーツや運動に、「色々なスポーツをしたい」と回答した者が上位を占めた。これは、今までスポーツや運動を熱心にする機会が少なかったことが特定のスポーツや運動を選択できないといった理由につながったと考えられる。また、やってみたいと回答したスポーツ・運動種目については、まず学校のクラブ活動において、運動が苦手な生徒でも参加できる体制を構築することが重要である。また7割の中学生が学校での運動部で取り組んでいる現状を解消するためにも、自治体や地域の組織が連携して様々なスポーツや運動を実践できる環境を作ることが急務である。そして、情報の収集方法の少ない現状を踏まえ、様々なスポーツ・運動の活動場所やクラブ組織の情報提供が容易に入手できる環境整備することでスポーツ・運動の実施率を上げていくことにつながると考える。しかし、その内容については勝利至上主義的要素ではなく、誰もが参加できるレクリエーション的要素のスポーツ・運動環境を整備していくことが、非実施者が始めるきっかけや多くの人が継続していくことにつながっていくと考える。

引用文献

- 1) 文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ・青少年企画課スポーツ政策企画室 (2012)『学校と地域における子どものスポーツ機会の充実』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1319043.htm
- 2) スポーツ庁健康スポーツ課世論調査報告書 (2016)『スポーツの実施状況等に関する世論調査』世論調査報告書 pp13-14.
- 3) スポーツ庁 (2017)「平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」pp54-55.

- 4) 内閣府 (2009) 「体力・スポーツに関する世論調査」
<https://survey.gov-online.go.jp/h21/h21-tairyoku/2-3.html>
- 5) 文部科学省 (2013) 「運動時間が少ない児童生徒への取組について」 http://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2013/12/20/1342614_3.pdf
- 6) スポーツ庁 (2018) 「スポーツの実施状況等に関する世論調査」
- 7) 横浜市 (2005) 「中学生のスポーツ実施に関する調査」横浜市・市民スポーツ環境調査 pp1-29.
- 8) 舞寿之他 (2014) 「地域における子どもの運動・スポーツ活動の現状の問題点と課題に関する研究」プール学院大学紀要第 55 号 pp140-151.
- 9) 林園子 (2012) 「中学生における運動・スポーツ活動が日常生活の充実度に与える影響に関する研究」東京家政大学第 52 集 pp47-54.
- 10) 加賀勝他 (2004) 「青少年期における運動実施頻度の二極化について」日本小児科学会雑誌 (0001-6543) 108 巻 4 号 pp625-634.
- 11) 谷川尚己 (2014) 「高校生の運動習慣と学校生活の関係」びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要 第 11 号 pp23-32.
- 12) 古川麻衣 (2012) 「運動嫌い Jr 体育嫌い」の実態と発生要因に関する研究 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集 Vol.13.2012.3 pp107-115.
- 13) 池田孝博 (2016) 「幼児期における運動能力の偏りと生活環境要因の関連」福岡県立大学人間社会学部紀要 2016, Vol. 24, No. 2, pp23-39.
- 14) 飯塚ひとみ他 (2017) 「幼児期における積極的な運動遊びの経験の有無が体力・運動能力に及ぼす影響について」神奈川県立体育センター研究報告書 pp1-15.